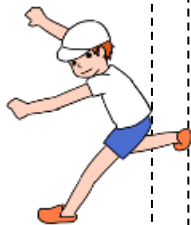
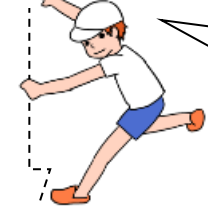


本時の目標	体の動きを根拠にして、高まる体力要素を考え、その意図に合った場や行い方を工夫し、運動することができる。	
学習活動		教師の支援と評価（◎）
1 問いを確認し、前時を振り返ることでめあてをもつ。 問い 体力を高めるには、どのように遊べばよいかな？ 行い方を変えると、高まる体力が変わってくるね。もっと体力が高まるような新しい行い方を考えるのもおもしろいね。  2 高まる体力を意識して、森の中で遊ぶ。 (児童のめあてと意識の流れの例) Aグループの例 バランスをとるために、根から落ちずに、もっと遠くまで行こう。 Bグループの例 腕の力を高めるために、足を使わずに、腕の力だけで坂を登ろう。 Cグループの例 体の柔らかさを高めるために、ゴムに当た向こうまで行こう。  根から根へ飛んで着地するときには、重心を下げるとうまくバランスがとれたよ。  腕だけでなく腹筋にも力を入れると良かったよ。  普段は意識し節を意、らかく気がし あまりない関 識した体が柔 なったよ。 3 行い方と体力要素の関係を共有する。 予想していた体力の高まりとは違う遊びがあるね。実際に体を動かすことでよく分かるね。よく考えて場や行い方を変えてみよう。  4 共有した内容を生かして、もう一度遊ぶ。  横向きに変えると手を広げてバランスをとらないと難しかったよ。  坂を座りながら上がるには、ふくらはぎに力を入れればよかったよ。  腰をこたらけた ねじる で、当 ずに行 よ。 5 まとめをする。 重心の位置に気を付けながらバランスをとることが大切だと分かった。 力を入れるときには、腹筋に力を入れることが多かった。同時に力が入れていることが分かった。 普段は意識しないや付け根の関節をて曲げることで、柔らかが高まった。 6 振り返りをする。		○ 前時までの学習をまとめ、提示することで、本時の学習の見通しをもつことができるようにする。 ○ 行い方と高まる力が大きく関係していることを振り返ることで、行い方を工夫するよさを理解することができるようにする。 ○ 高まる体力と、そのための体の動かし方を確認することで、常に自分の体と向き合うことができるようにする。 ○ 新しい行い方をしているグループを称揚し、周りのグループに広めることで、多様な動きができるようにする。 ○ うまく体を使うことができない児童には、友達の体の使い方に目を向けたり、体の動かし方を確認したりすることで、体の動きを高めることができるようにする。 ◎ 自分のめあてに合った場や行い方で、体の動きを高める運動を行うことができる。(知識及び運動) ○ タブレット型端末を準備することで、グループで考えた場や行い方をまとめやすくする。 ○ 予想していた高まる体力要素とは違う要素が必要になった活動を取り上げることで、より体の動きを意識して運動することができるようにする。 ○ 教師も写真を撮っておくことで、視覚的に運動を振り返ることができるようにし、共有をしやすくする。 ◎ 自分のめあてに合うように、運動の行い方や場を工夫している。(思考力、判断力、表現力等) ○ 画像を見ることで、場と行い方と体の動かし方を視覚的に振り返ることができ、それぞれを結びつけて、学習のまとめをすることができるようにする。

